

○小学校算数＜並木小学校＞

○算数A(主として知識)について、本校の平均正答率が県76.5%, 全国77.6%を上回っている。図形の構成や数量関係の割合の意味など、数量や図形についての知識を身に付けている。しかし、くり下がりのある減法や小数や分数の乗法・除法など計算の技能に課題がある。

○算数B(主として活用)について、児童の平均正答率が県47.1%, 全国47.2%を上回っている。示された図形を並べてできる図形を判断したり、図形の辺の長さを変えると面積が変わることを説明したりすることに課題がある。

○課題等

数と計算

- ◇ (A) 整数・小数の数の大小を理解している。
- ◇ (A) 除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している。
- ◇ (B) 示された式に数値をあてはめて計算したり、式の中の数値の意味を説明したりすることができる。
- ◇ (B) 文章題の立式の意味を理解し、説明することができる。
- ◆ (A) 除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという計算のきまりの理解に課題がある。
- ◆ (A) くり下がりのある減法、小数の除法、分数の乗法の計算(約分あり)など基礎的な計算の技能に課題がある。

量と測定

- ◇ (A) 三角形の底辺と高さの関係について、よく理解している。
- ◆ (B) 正方形の周囲の長さが一定でも、たて、横の辺の長さを変えると面積が変わることを理解し、その考えを別の場面に適用して、説明したりすることに課題がある。

図形

- ◇ (A) 三角定規を組み合わせて、図形を構成することができる。
- ◆ (B) 図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。

数量関係

- ◇ (A) 全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している。
- ◇ (B) 単位量あたりの大きさを求めるために必要な情報を判断し、特定することができる。

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 () の記号は、A=算数A, B=算数B

○指導改善のポイント

数と計算

- 「小数の減法では、なぜ被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないのか」「分数の除法では、なぜ除数の逆数をかければよいのか」など、計算方法を丸暗記するのではなく、考え方を説明できる力を身に付けていきたい。問題解決型の授業の中で、児童に思考させたり、考えを説明させたり、友だちの考えと比較させたりする活動を大切にしたい。
- 問題解決型の授業を展開すると、練習問題を解く時間を確保することが難しい。四則計算については、反復練習を行い、計算の技能を身に付けさせることも大切にしたい。朝学習や家庭学習を活用し、日常的に計算練習に取り組みさせていく必要がある。また、「並木っ子計算検定」に取り組みさせることで、それぞれの児童がどの学年の、どの学習でつまづいているのかを発見し、個に応じて補習させていきたい。

量と測定

- 5年生の図形の面積の学習で、算数的活動をたくさん取り入れて活動してきたことで、図形の底辺と高さの関係や面積の求め方をよく理解している。一方で、学習して得た知識や技能を活用して、新しい図形の問題を解いたり、説明したりすることに課題がある。三角形の面積の公式など既習を用いて、台形やひし形の面積が求められるように、さらにいろいろな問題に取り組みさせ、思考力・表現力を身に付けさせたい。

図形

- 三角定規や分度器、コンパス等を使った作図等の活動時間を確保する。
- 図形のしきつめや、図形を組み合わせて他の図形を作るなど、実際に手を動かしながら思考する算数的活動を取り入れることで、図形の理解を深めさせたい。

数量関係

- 三角定規を組み合わせてさまざまな図形を作る時、何枚使うとぴったりと組み合わせられるかを、角度を基に計算で求め、説明することができた児童が6%しかいなかった。上の図形の領域でも触れたが、図形のしきつめ等の算数的活動を取り入れることが大切であるが、さらに「どうして、しきつめることができたのか」「それぞれの図形の頂点が集まる場所の角度は、何度になっているのか」など、操作したことを説明したり、記述したりすることも大切である。

全体として、知識を活用したり、課題解決の過程を説明したりする力を伸ばしていくために、深い学び、対話的な学び、主体的な学びの過程を授業の中に取り入れていかなければならない。